

# リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋㈱														
工期	令和6年8月1日 ~ 令和7年3月31日		作成者	金子 歩夢														
作業名称	段差修正工	作業手順書	作成年月日	令和6年7月25日														
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	黄バト、材料運搬車(トラック)、連絡車(普通車)		現場担当者															
使用工具 機器 (大きさ太さ等は具 体的な寸法を記す)	カッター、コテ		協力会社	会社名														
保護具	安全靴、ヘルメット、安全チョッキ(点滅)、防護メガネ、防護手袋 耐切創用手袋【ヨーロッパ規格EN388:2016 レベルF】※カッター使用時		協力会社責任者	自筆サイン														
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す	普通自動車運転免許、準中・中・大型自動車運転免許		<b>作業順序</b> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>準備作業</td></tr> <tr><td>2</td><td>清掃</td></tr> <tr><td>3</td><td>マスクング</td></tr> <tr><td>4</td><td>材料攪拌※1</td></tr> <tr><td>5</td><td>コテ作業(材料投入)</td></tr> <tr><td>6</td><td>骨材散布</td></tr> <tr><td>7</td><td>清掃・片付・硬化確認</td></tr> </table> <p>※1 コテ作業しにくい場合はバックゾールヘG (As乳剤) 50m lの水を添付</p>		1	準備作業	2	清掃	3	マスクング	4	材料攪拌※1	5	コテ作業(材料投入)	6	骨材散布	7	清掃・片付・硬化確認
1	準備作業																	
2	清掃																	
3	マスクング																	
4	材料攪拌※1																	
5	コテ作業(材料投入)																	
6	骨材散布																	
7	清掃・片付・硬化確認																	
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員を全て記 す)	清掃:2~5名、マスクング:2~5名、材料攪拌:2~5名 コテ作業:2~5名、骨材散布:2~5名、清掃・片付・硬化確認:全員(責任者)																	
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)	周知会実施日	令和 年 月 日															
	(役割を確認してこの作業に関わる 全員が自筆サインする)																	

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○○	○△	○○	1:極めて小さい	関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△○	△△	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対策の指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×○	×△	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
			××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要	

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目 (誰が)	手順 主なステップ	急所 作業のポイント	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	リスク レベル	ミス・ ロス	リスクの除去・低減のための 実施すべき事項の特定 (防止対策)
ミーティング(全員)	健康状態の確認・免許・資格等の確認・業務用プレートの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認。工事車両幕がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。 担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。 車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。	運転手、全員							
車両の点検・準備	車両の始業前点検、 工具の確認	積荷の確認	走行の中荷崩れ、飛散養生。	○	×	○	3	安	トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。
工事車両進入	工事車両進入	料金所手前合流部	移動中一般車両と接触する。	○	△	○	2	安	道路交通法を遵守する。区間内走行ルール・駐車ルールの厳守
清掃	路面の骨材の撤去	幕等の使用	清掃せず路面と材料が付着しない箇所が発生する。	△	△	△	3	公	新設層が飛散することを考慮し路面の清掃は必ず行う。
マスクング	養生テープの使用	施工範囲の選定	施工範囲との境界部の養生を意り完成形が歪になる。	○	○	○	1	品	清掃後、施工境界部へ養生テープを設置し境界部を作成する。
材料攪拌	骨材の空混合	塊の除去	空混合を意り乳剤混合しない部分が発生する。	△	○	△	2	品	封を開け、空気を入れ込みながら混合させ塊があれば解す。
材料攪拌	バックゾールG内の攪拌	骨材との混合前	乳剤内容物の分離等を考慮せず骨材とそのまま攪拌する。	○	○	○	1	品	バックゾールG(乳剤)の容器を上下によく振り内容物を混合させてから骨材と混合させる。
材料攪拌	骨材とバックゾールGの混合(比率1:1)	袋内での手動攪拌	硬化時間を考慮せず材料が袋内で硬化しきってしまう。	△	△	△	3	環	10秒~20秒程度で均一に素早く混ぜ路面に垂れ流す。
材料攪拌	バックゾールG使用時	保護具の着用	袋に穴が開き乳剤が飛散し目に入る。	△	△	△	3	安	バックゾールG(乳剤)を含んだ攪拌をする際は保護メガネを着用する。
コテ作業	ロメンパッチの敷き均し	コテ仕上げ	路面の段差を気にせずコテ作業を行い段差の修正ができていない。	○	×	○	3	品	上流側、下流側の段差(深さ)を確認し、段差がないように擦り付けを行う。
コテ作業	ロメンパッチの敷き均し	施工厚による層分け	施工厚さにより層数を考慮せずはがれやすくなる。	○	×	○	3	品	2cmを超える段差修正を行う場合は2層及び3層に分けて施工する。
骨材散布	ロメンサンドの使用	施工部への散布	骨材の粉塵が皮膚や目に付着する。	△	△	△	3	安	骨材散布時は保護手袋、保護メガネを着用する。
清掃・片付・硬化確認	硬化確認(30分)後の清掃	不付着な骨材の除去	不付着な骨材の除去を行わず一般車に骨材が飛散する。	△	×	△	4	公	硬化確認後(30分後)付着しきれていない骨材を幕で軽くはく。
後片付け	清掃・後片付け	残材、工具の忘れのないように							
	積荷の確認	積荷の状態	走行の中荷崩れ、飛散養生。	○	×	○	3	安	トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。
現場離脱	工事車両退出	指定の出口で一旦停止	通過車両と接触する。	○	△	○	2	安	通過車両の通行がないのを確認後退出。  工事車両幕を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事